

# これまでの3年を、将来へつなげる

## ～学生座談会～

### ■参加者の紹介

- 松本 紘(総長)
- 大西有三(施設・情報基盤・環境安全担当理事)
- 浅利美鈴(環境保全センター助教/環境エネルギー情報管理サイトワーキング幹事)
- 千葉知世(地球環境学舎修士1回)
- 根本潤哉(人間・環境学研究科修士課程(卒業))
- 藤本成彬(工学研究科修士1回)
- 松井 健(農学部3回)
- 水嶋周一(工学研究科修士1回)

詳しくは詳細版8ページへ [HP](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/) <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/environment/report/index.htm/>

構成員全員参加型でのエコキャンパス化を目指し、「エコ宣言ウェブサイト\*1」の展開を始めました。その作成の中心となったワーキンググループの学生の皆さんに集まっていただき、2008年10月に新たに就任された松本紘総長、大西有三理事(施設・情報基盤・環境安全担当)と意見交換を行いました。過去3年間の京都大学の環境活動について環境報告書をもとに振り返り、今後の構成員を巻き込んだ展開について考えました。



松本 紘

これからの「エコ活動」は、徹底的に無駄を排除しなければならないのです。地球上では人口が増え続けていて、限りある資源の状況で、将来、今と同じく生存可能な社会ができるでしょうか？  
皆さんが作っている「エコ宣言ウェブサイト」についても、「エコ宣言に参加してほしい」だけではなく、これからの自分たちの世界はどうなるのか、危機が迫っている現実を伝えてください。

大西有三



藤本成彬



「マイボトル」\*2のような取り組みは、意識改革のきっかけには良いでしょう。でも、これだけでは根本的な解決にはなりません。身近な環境配慮行動に取り組みながらも、大きな問題の解決策を考える、そのバランスが大事ですね。

「エコ宣言ウェブサイト」の作成にあたって、私は海外の大学の環境活動事例を調べました。それらを参考に、構成員へ強いメッセージを発信できるように、また海外へも発信できるように、工夫します。

環境配慮行動のような取り組みをする時は、初めに、どうしてその環境配慮行動が必要なのか、という根拠をはっきり伝えていこうと思います。



水嶋周一

これからは大学と学生が連携できるよう、構成員を巻き込み、その能力が発揮できる「エコ宣言ウェブサイト」のような場が増えれば。



根本潤哉

「エコ宣言ウェブサイト」を通じて積極的にコミュニケーションできるようにし、最終的には目に見える人間関係を形成できたらいいですね。

これからの取り組みを進めるうえで、喝を入れてもらいました！



松井 健

千葉知世

### 【用語解説】

- \*1 京都大学エコ宣言ウェブサイト：構成員参加型のエコキャンパス化を目指し、その推進の一環として立ち上げたウェブサイト。裏面参照。
- \*2 マイボトル：2008年度より、レジ袋の次のターゲットとして、ペットボトルの使用量を減らすための検討・試行を開始。マイボトルによる飲料提供システムの導入をモニター(530人を公募)実験により検証中である。詳しくは詳細版38ページ参照。